

社外からのメッセージ MESSAGE FROM STAKEHOLDERS



東洋大学名誉教授
米倉 亮三 様

私が「東亜港湾工業株式会社」という社名に初めて接したのは、岡部三郎先生を通してであった。当時、岡部社長は大学の非常勤講師もされており、我々学生に、世界や日本の港湾事情や港湾計画を穏和のなかにも熱っぽく語られたものである。この先生の誠実で紳士的な情熱は、そのまま「東亜港湾工業」後の「東亜建設工業」のイメージとして、私のハートに焼きついたのである。

その後60年近くの間、数多くの社員の方々と接する機会を得たが、一人としてこのイメージを覆す人はいなかった。これがCSRの基本だと思うのである。

今や日本のみならず世界中に広がった「ミーイズム(自己中心主義)」の嵐のなかで、「高い技術をもって、社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす」という社是を掲げて紳士道を邁進すれば、会社を取り巻いて信頼の渦がわき上がり、結果がついてくるものである。

日本の未来は、グローバル化の正しい発展と、豊かな日本の経済水域の正しい開発にあると思うが、その先頭に真摯な姿で立っている「東亜建設工業」が、着実な歩みを進めて、日本の未来を切り開いていくことを、心から願うものである。

十数年前から、専門分野や専門家としての「倫理」が社会的に強く求められるようになった。倫理とは人間の心のありようを問うものであったが、次いで、個人レベルではなく法人としての企業倫理のあり方が強く求められる時代になり、「コンプライアンス(法令順守)」が社会を席卷した。これが企業倫理と同義的に扱われており、歴史的には、江戸時代商人の三井家や住友家の家訓に表現され、企業の社会的責任を表すものとなっている。

私が企業の社会的責任(CSR)という言葉で連想したのが、内村鑑三のキリスト教的演説「後世への最大遺物」である。このなかで彼は「死ぬまでにこの世の中を少しなりとも善くして死にたいではありませんか。まず第一番に大切なものが金です。われわれが死ぬ時に遺産金を、己の子供に遺して逝くばかりでなく、社会に遺して逝くということです(抄)」と語っている。内村は、金持ちになることを推奨しているのではなく、金持ちになったら社会に貢献しなさいと説いている。そのうえで、企業責任の本質に触れている。次いで、「どういう事業が一番誰にもわかるかという土木事業です。(中略)永遠の喜びと富を後世に遺すことではないかと思えます。」と、社会資本整備の重要性を説いている。

21世紀におけるCSRのあり方を考える時期なのかもしれない。私個人としては、社会資本整備に関わる東亜建設工業の社会的責任は三つあると考える。第一にすべてのステークホルダーに対して利益を上げること。第二にすべてのステークホルダーのことを考慮し安全で安心できる社会資本を整備すること。第三に地球環境の保全、とりわけ地球温暖化要因の削減に貢献することであろう。



日本大学教授
近藤 健雄 様



広島工業大学教授
宮崎 祐助 様

昨今の建設業に大いなる疑問を抱いています。まず、経済活動が誠にもって不健康すぎます。正当な利益が得られず赤字工事が珍しくないといった現状に明るい将来が見いだせません。これでは、現役の方々はもちろん、これから建設業を目指す若者のモチベーションも上がりません。世界に誇れる建設技術を安売りしてはいけません。

技術に対する正当な対価を求めべく立ち上がってもらいたい。法令順守は当然のことですが、法にも実状にそぐわないおかしなものもあります。業界として主張すべきは主張していくという姿勢を強く打ち出してもらいたいと思います。東亜建設工業には、業界のオピニオンリーダーとして頑張ってくださいと思います。これも広義でのCSRかと思えます。

次に、少子化・子供の理科離れ現象を考えると国民の半数を占める女性との共働を真摯に考えなければならない時がきていると思います。女性の活躍なくして人材立国も成り立たなくなると思います。

東亜建設工業には、この面でも業界の先駆者としてお考えいただきたく期待いたします。



CSR 担当役員
執行役員専務
鳥居 剛

外部からのメッセージをいただいて

米倉先生、近藤先生、そして宮崎先生の貴重なメッセージをいただき、誠にありがとうございました。

企業の社会的責任とは、育んできた歴史やイメージを正しく伝え、継続的に喜びと富を後世に遺していくことです。今は建設業界は疲弊化していますが、携わるすべての人たちが自信と誇りをもてる社会と企業環境をつくるために、情報の開示に努め、さらに社会に対し主張すべきは主張することが大切であると、改めて感じました。

TOAグループは、情報の開示・情報の共有による社員間のコミュニケーションを大切に、トップの率先垂範によりチームワークを堅持します。そして、社会規範と職場ルールを守り、社員間の公平性を保ち、役職員一丸となって高い技術をもって社業の発展にまい進します。

今後とも温かいご支援とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。